

## Sky Seminar

## 飼い主と犬は似ている？

写真家の福田文昭さんの作品に『愛すれば、そっくり』という写真集があります。64人の有名人や一般人と、飼っている犬の1ショット写真をままとめたもので、飼い主と犬の顔のそっくり度(類似度)が微笑ましく感じられます。

このように、飼い主と犬の顔が似ているというケースは多く、しばしば話題になります。しかし、まったく似ていないというケースもあるでしょう。似ているかどうかの判断は見る人によっても異なるでしょう。したがって、「一般論として飼い主と犬の顔が似ているかどうか」という問いに答えるためには、客観的で偏りのないデータを十

分に収集し、分析することが必要です。

飼い主と犬の顔が似ているという研究は海外で2、3例が報告されています。われわれは、日本でも本当にそうなのかどうか調べてみました。

まず、犬の飼い主40人の顔写真を撮影させてもらいました。その飼い犬40頭(すべて純血種で、さまざま犬種が含まれています)の顔写真も撮影しました。そして、これらの顔写真を使って複数の実験を行いました。

例えば、写真の飼い主や犬とは会ったことがない判定者70人に、飼い主の写真と犬の写真を見せて組み合わせてもらったとこ

ろ、平均正答率は偶然に当たる確率を上回っていました。写真を組み合わせる際、判定者は、飼い主と犬の顔の類似度をもとにしていることもわかりました。これ以外の実験でもすべて、飼い主と犬の顔が似ていることを肯定する結果が得られました。

こうして飼い主と犬の顔が似ていることは確かめられました。では、なぜ似ているのでしょうか。この問いに対する答えを出すにはまだまだ研究が必要ですが、これまでに2つの仮説が提唱されています。ひとつは「そもそも似ている犬を飼う」という仮説です。われわれは毎日鏡を見ているので自分の顔に馴染みがあり、愛着がわいていいます。したがって、自分と同じような顔をした犬を選ぶのかもしれませんが。

「飼っているうちにだんだん似てくる」という仮説もあります。人間の夫婦は一緒に生活することで顔が似てくるという報告があり、その理由として、(a)食べるものが同じだから(高脂肪食による肥満傾向など)、(b)気候が同じだから(日焼けや温度などによる影響)、(c)同じ体験をするから(喜んだり悲しんだりという感情が顔に刻まれる)といった可能性などがあげられています。飼い主と犬の間でもこうした可能性を検討する必要があります。

ところで、顔の類似性だけでなく、性格の類似性というのも面白い研究テーマです。われわれの研究室では、その調査のために飼い主と犬の性格テストの開発も始めています。

## 中島 定彦

関西学院大学  
文学部総合心理科学科教授、博士(心理学)

なかしま・さだひこ

上智大学文学部心理学科卒業後、慶應義塾大学大学院で動物の知的行動の研究に従事。日本学術振興会海外特別研究員としてベンガル大学に留学。関西学院大学文学部専任講師に兼任後、助教、准教授を経て、2006年より教授。専門は動物心理学、学習心理学。「ヒトと動物の関係学会誌」元編集長。日本動物心理学会の「動物心理学研究」常任編集委員などを務める。著書に「アムルラ・ニソフ」(学習の心理)、「共著」などがある。



関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ヶ原キャンパス  
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号  
●神学部●文学部●社会学部●法学部●経済学部●商学部●人間福祉学部●国際学部(2010年4月開設予定)

西宮聖和キャンパス  
〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7番54号  
●教育学部

神戸三田キャンパス(KSC)  
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地  
●総合政策学部●理工学部